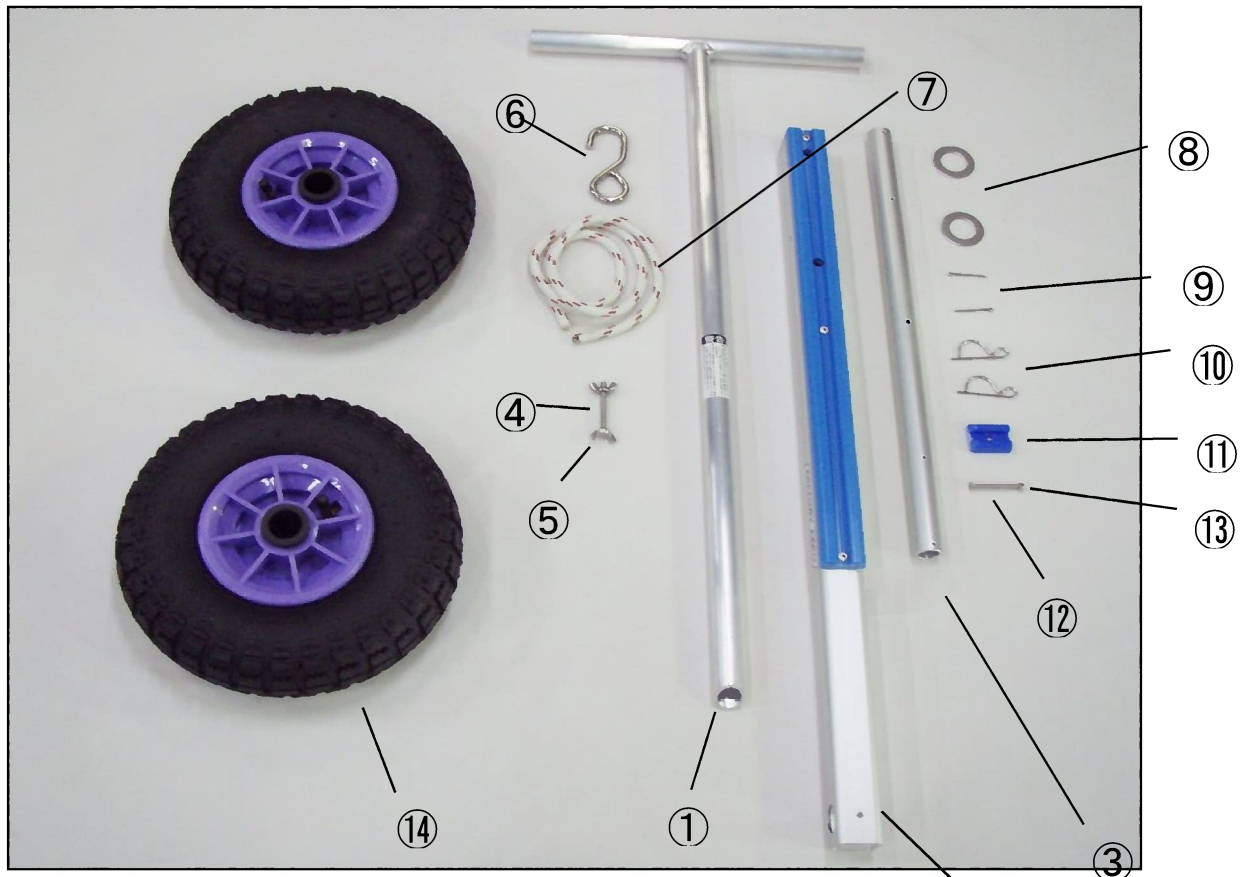


F750 バウダーリー部品図



写真はDタイヤです (F750A
はAタイヤがセットとなります)

F750

バウダーリー部品表

写真NO	品番	品名	数量
①	F750-10	F750取っ手フレーム	1
②	F750-11	F750立ち上がりフレーム	1
③	F750-12	F750車軸 500mm	1
		パッキンセット(ビニール袋入り)	
④	P14-6-50	蝶ボルト6-50	1
⑤	P08-06	蝶ナットM6	1
⑥	JL100-80	SUSスキャン SAP-8	1
⑦	JL405	ランチャー&J-2000用ロープφ8×1.2M	1
⑧	P06-27	Fタイヤ用ワッシャー M27W φ27xφ40x2t	2
⑨	P10-3-35	SUS割ピン3-35	2
⑩	Z521	Dリング 車軸用	2
⑪	JL104-38-1	F750用当てレール38mmM5皿	1
⑫	P02-5-50	SUSプラス皿5-50	1
⑬	P15-05	SUSナイロンナットM5	1
		タイヤはご購入された商品により2種類有ります	
⑭	TA30D	Dタイヤ ベアリング410/350-5ホス幅82mm	2
⑭	TA40A	Aタイヤ ベアリング4.80/4.00-8新キャップ	2



コチラのQRコードより
弊社通信販売にて
交換部品販売しております。

FACTORY ZERO

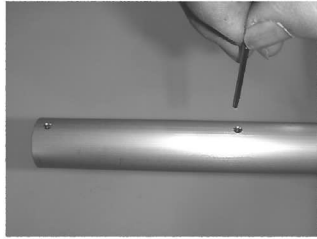
2022/12

F750 バウドリー 取扱説明書

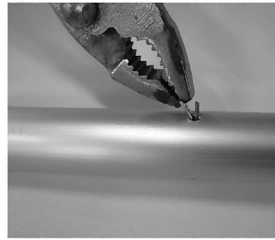
ご使用に当り艇体のバウアイ、バウリング、等のフック使用部強度が牽引使用に十分耐えられるかご確認ください。
無理に使用すると艇体を破損する恐れが有りますのでご注意ください。
特にインフレーターボートは取り付けバウリングの強度が不足している場合も有りますのでそのような場合は使用を中止してください。



③の車軸を②のフレームの丸穴に差込み青いレールが付いている向きに⑪当てレールと一緒に中央部分を⑫⑬のM5皿ネジ、ナイロンナットで固定します。



⑨割ピンを内側の穴(左右2ヶ所)に差込、プライヤーで先端を広げます。



⑧ワッシャーを入れます



⑭タイヤを入れ⑩Dリングで止めます



②フレームの上側の穴に①取っ手フレームを角度が合う方向に差し込みます。



取っ手とフレームを④蝶ボルト⑤蝶ナットで止めます(この部分は組み立て式となります)



⑦荷掛けフックに⑥ロープを縛ります(写真はもやい結びです)



フックに付いたロープをフレームの上側の穴に通します(2ヶ所穴が有りますが艇体のフックの位置によりどちらを使用しても良いです)



ロープの反対側の端止め(結び目)の長さで艇体の吊り下げ長さを任意の位置で決めます。



FRPボート使用例(トランサムドリーと併用します)



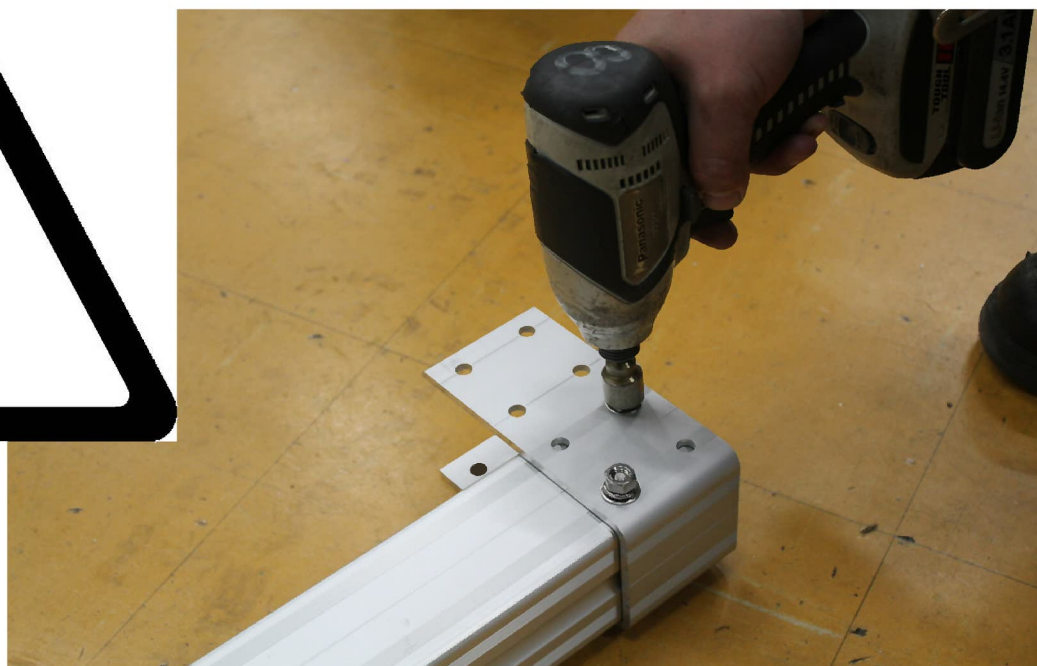
インフレーターボート使用例(トランサムドリーと併用します)

- ① ドリーを取付けた状態での走行や帰港時の直接乗り上げはしないで下さい。一旦ボートから降りて引き上げて下さい。
- ② 本体の使用荷重はエンジン、装備等含めた船体重量Aタイヤ80kg、Dタイヤ60kg以内でご使用下さい。
- ③ ボート移動の際無理な力で押したり引いたりしないで下さい。基本的には引いてご使用下さい。(下架時は押します)
- ④ 傾斜地では横転の恐れが有りますのでご注意ください。
- ⑤ 定期的にブラケット、取っ手等の取付け等点検をして下さい。異常が感じられた時は使用を中止して下さい。
- ⑥ タイヤ空気圧は0.8kg～1.0kg以下にてご使用下さい。
- ⑦ 車内等に入れる場合は多少空気圧を落とし、常時窓を開けて換気して下さい。
- ⑧ 直射日光の当たる所で保管しないようにして下さい。

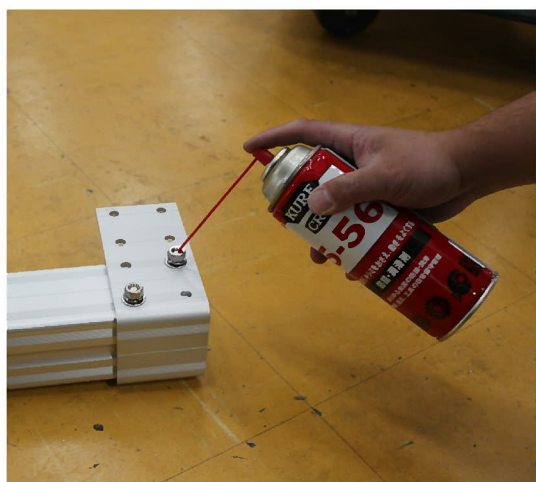
<<ボルトの締め付け、取扱い注意>>

ステンレスのボルトやナットをインパクトレンチなどで急激に締め付けるとネジの嵌め合い部で摩擦による熱が発生し、その熱によってネジ部が膨張し、オネジとメネジが密着し焼付きを起こし動かなくなることがあります。そのまま締め付けていくとボルトが折れることもありますのでご注意ください。
また必ず潤滑剤を塗布してから締め付けをしてください。

ナイロンナットにはすでにオイル等を塗布してパックされていますが、地面に落としたり、砂埃で砂が付着した際はきれいにしてから再塗布をし締め付けをしてください。



急激な 締め付け注意！



潤滑剤を塗布してください。

タイヤご使用上の注意

このたびは弊社製品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。
弊社のエアータイヤにつきまして下記のことにご注意してご使用下さい。

TA40F/TA40G/TA40J (ジェットランチャー、ジェットバンク、L700 等に使用)

- チュープレスタイヤですのでチューブは入っておりません。
- タイヤ空気圧は約 0.8kg～1.0kg位でお願い致します。特に夏場は直射日光で内圧が高まりますので必ず数値内でご使用下さい。
- 運搬の際はなるべく車外で搬送してください。車内に入れる場合は空気圧を必ず 0.5kg以下にして下さい。また、停車時には必ず窓を開けて換気し、直射日光を避けて下さい。
- 冬になり気温が低下するとタイヤの内圧が下がり、チュープレスタイヤなので空気が抜けてしまう場合が有ります。船を載せて保管される場合は時々空気圧のチェックをして下さい。
- タイヤが潰れたまま長期放置すると、ヒビ割れして空気の再注入が不可能となってしまいます。長期保管の場合には、台車の下にブロック等を入れておく事をお勧めします。
- エアー漏れでも早期に対処していただければ十分再生します。時々点検していただくようお願い致します。

TA40A(アルミランチャー、トランサムドローリー等に使用)

- タイヤ空気圧は約 0.8kg～1.0kg位でお願い致します。夏場は気温が上昇し内圧が高まります。また、冬場は低温で空気圧が下がりますので空気圧の点検をお願い致します。
- 運搬の際はなるべく車外で搬送してください。車内に入れる場合は空気圧を必ず 0.5kg以下にして下さい。また、停車時には必ず窓を開けて換気し、直射日光を避けて下さい。
- 空気圧が少ないままの使用、保管はチューブの損傷やタイヤの劣化を早めます。時々点検していただくようお願い致します。
- 交換用タイヤ(外側)とチューブは別途販売しています。適宜交換下さい。

TA30D(サーフ系ランチャー、Z071 前輪等に使用)

- タイヤ空気圧は約 1.0kg～1.5kg位でお願い致します。夏場は気温が上昇し内圧が高まります。また、冬場は低温で空気圧が下がりますので空気圧の点検をお願い致します。
- 運搬の際はなるべく車外で搬送してください。車内に入れる場合は空気圧を必ず 0.5kg以下にして下さい。また、停車時には必ず窓を開けて換気し、直射日光を避けて下さい。
- 空気圧が少ないままの使用、保管はチューブの損傷やタイヤの劣化を早めます。時々点検していただくようお願い致します。

上記全てのタイヤについて





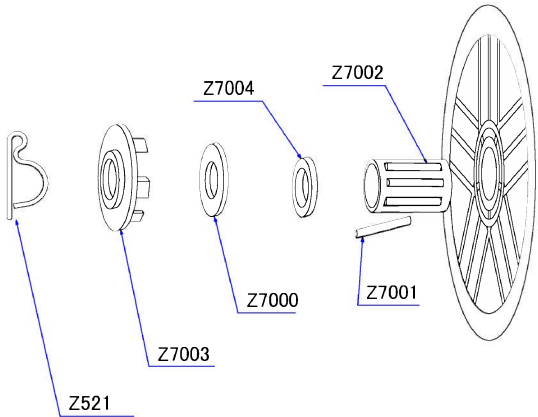
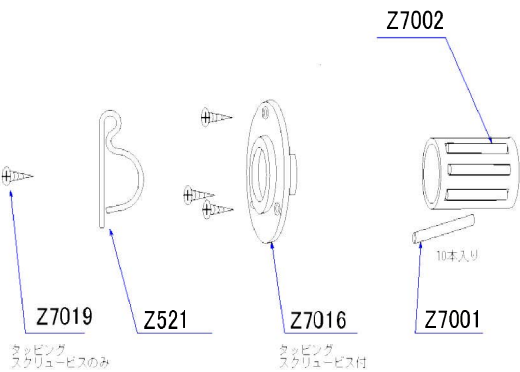
- 車軸部にベアリングが内蔵してあります。ベアリング部にはグリス等を塗布しないようにして下さい。砂、埃、が付着して磨耗の原因となります。ベアリング部は良く水洗いしてください。
- ベアリング部も消耗、紛失した場合は交換用部品がございますので、補修をしてください。
- 空気は、ガソリンスタンド等に置いてある自動車、バイク用の空気入れで入れられます。一般自転車用の空気入れではバルブ形状が合いません。詳しくはHPをご覧ください。

空気圧換算表

kg	Kpa(キロパスカル)	pa(パスカル)	PSI(ポンド)	Bar(バール)
1	100	100000	14.2	1

2018年よりTA40系のベアリングが変更になりました。

下記、相違表をご確認ください。

	旧	新
	2017年まで	2018年から
品番	TA30系	TA40系
キャップ色	ブラック	グレー
固定方法	打ち込み式	ビス止め式
キャップ		 ※適宜ゆるんでないか確認してください。
リム形状	 打ち込み式の形状です	 ※穴は2つ並んであります ビスが締め切らなくなりましたら 隣の穴をご使用ください。 ビス用の穴があります
部品図	 部品図のZ7003は TA40系には使用できません	 部品図のZ7016は TA30系には使用できません